

## 会 議 録

会 議 名	八王子市子ども・子育て支援審議会 第7回給付部会	
日 時	平成26年 5月27日(火) 午後 4時10分 ~ 5時30分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 特別会議室	
出席者氏名	委 員	青木訓行部会長、池永文乃委員、内野彰裕委員、鍛治礼子委員、小林千里委員、柘澤章次委員(部会長以下五十音順)
	関連所管	
	事務局	平塚裕之課長、久間毅課長、志萱龍一郎課長、秋元政人主査、小池靖信主査、田村和嗣主査、國井益満主査、稲田智範主査、三宅智之主査、小林勝己主査、三澤由香理主査 他
欠席者氏名	塩澤伸久委員	
議 題	1 待機児童集計結果について 2 「量の見込み」について 3 その他	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	なし	
配付資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育所の受け入れ状況等について</li> <li>○保育所の受け入れ状況等について(詳細)</li> <li>○保育所入所待機児童の定義(国定義)</li> <li>○年齢別保育所入所待機児童の状況</li> <li>○待機児童数と施設整備</li> <li>○幼稚園在園児数の推移</li> <li>○就学前児童人口の推移</li> </ul> 別冊 ○子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出方法について(第6回本審議会資料)	
会議の内容	別紙のとおり	
会議録署名人	平成26年10月10日 青木訓行	

## 議題1 待機児童集計結果について

【事務局】（資料「保育所の受け入れ状況等について」「保育所の受け入れ状況等について（詳細）」「保育所入所待機児童の定義（国定義）」「年齢別保育所入所待機児童の状況」「待機児童数と施設整備」「幼稚園在園児数の推移」「就学前児童人口の推移」について説明）

今年度の施設整備は、改修が10園、新設が2園です。計209名というのは、0、1、2歳の定員を209名増やしていくということです。これでまた来年は待機児童がだいぶ減るのではないかと考えています。星の子保育園は、現在東京都認証保育所ですが、平成27年4月に向けて認可化を進めています。

【青木部会長】何かご質問はありますか。

【鍛冶委員】幼稚園の平均の定員充足率はどうなっていますか。

【久間保育対策課長】幼稚園は、認可定員と実際に受け入れる定員とで差があります。たとえば240名の認可定員でも、実際に受け入れるのは90名程度だったりしますので、定員と比べられないという事情があります。

【鍛冶委員】在園児数の増減でしか現状分析できないということですか。

【久間保育対策課長】はい。

【青木部会長】他にありますか。小林さんいかがですか。

【小林委員】人口が減っている要因を、市はどう見えていますか。

【久間保育対策課長】生まれてくる子どもの数が減っています。また、流入人口が減ってしまうと、それも関係してきます。

【柘澤委員】開発計画はないのですか。

【久間保育対策課長】特別大きなものはないです。ただ、ニュータウンの19住区と都有地が空いていて、そこを住宅にしようという東京都の考えもあるところですが、それに対しては商業施設の誘致なども含め、いろいろ議論されています。あとは、七国の開発がまだあると思います。

【青木部会長】人気の高い地域ですから、これからどんどん増えてくるかもしれません。

待機児童数では、平成22年がピークで496という大きな数字になっていますが、このとき何がありましたでしょうか。

【久間保育対策課長】子どもの数が若干増えていたのと、共働きが増え、保育需要が高まってきたころです。

【柘澤委員】平成20年には、リーマンショックがありました。

【久間保育対策課長】今年は施設整備をかなり進めてきたので、もう少し待機児童が減る見込みを出していました。しかし、見込みを上回る申し込みがあって、1歳児に限っては増えてしまいました。

【青木部会長】運営する側も大変だと思います。競争があり、定員割れしている保育園もあるのが現状です。待機児童については現状の説明のみということではよろしいですか。

【久間保育対策課長】はい。

【青木部会長】では、本審議会で報告があったパブコメについて、給付部会に関わる内容に関して、口頭で結構ですので、補足をお願いします。

【久間保育対策課長】内容については、これまでの議論内容をそのまま掲載しているので、変更点はありません。見せ方をどうするか固まっていないので、決定したものを近日中に配布したいと思っています。

## 議題2 「量の見込み」について

【青木部会長】それでは次に、量の見込みについてお願いします。

【事務局】(別冊資料(第6回本審議会資料)「子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出方法について」について説明)

このアンケートで致命的なところは、何歳から保育の事業を利用したいかを聞いていないことです。そのため、0歳児の保護者が保育園を利用したいと回答すれば、全て0歳から利用したいとみなされてしまい、実態にそぐわない値が算出されてしまいます。したがって、この事業については、アンケートの数字は使わずに、これまでの申し込み率などを参考にニーズ量を推計したいと考えました。

【青木部会長】3号認定の0歳の修正案について、何か質問ありますか。

【柘澤委員】現状では、希望よりも早く前倒しで入らないと保育園に入れないという部分がありますが、基本的に育休をきちんと取って1歳児で確実に入れることが担保されれば、もっとこの0歳児は減ると思います。そのあたりを政策的に落とし込んでいくような形にすると、この0歳児の取扱いを少し変えられるのではないかと思います。

【久間保育対策課長】同じ0歳でも、4月生まれと2月生まれでは、保育園に預けようとする親の割合が違うでしょう。あともう一点、4月、10月の待機児童をなくしていくのか、いつでも希望した時に預けられるというところまで定員を増やしていくのが難しいところです。いつでも入れる状態にするということは、その間空いた保育士が発生する

か、または数か月間だけ働く保育士を見つけるということになります。

【柘澤委員】本当はまだ預けなくても済むような人が4月から利用して定員が埋まり、年度途中で復帰してすぐフルタイムで働かなければならないという人が利用できないということもあります。

【内野委員】待機児0を追い求めても、一時は0になるかもしれませんが、ずっと0が保てるわけではないでしょうし、子どもの幸せにとってそれが最重要ということではないと思います。

【青木部会長】預かり人数と保育士の数は切り離せませんし、増えたその時に保育士を確保するというのは大変な話になってきます。判断が難しいところです。

【久間保育対策課長】0歳児だけは、他の年齢と比べていろいろと課題があります。とりあえずこの辺の数字にとどめ、年度ごとのローリングで見直しを図りつつ、課題として考えていきたいと思います。

【青木部会長】わかりました。それでは次のショートステイに移りたいと思います。

【事務局】（同資料中 ショートステイについて説明）

アンケート調査によるニーズ量が、昨年度の実績よりも下回ってしまったため、実績に見合う補正をかけようと思います。24年度までの利用件数は300台でしたが、子ども家庭支援センターで、子どもに手を上げてしまいそうな親のリフレッシュのために利用を勧めているとのことで、昨年度900件を超えました。今後も同様の対応が続くと見込んでいます。

【青木部会長】この点について何か質問ありますか。

親のリフレッシュですね。わかりました。ショートステイ利用したらどうですかと、適切なアドバイスがそういった方々に届くことを願います。

次に一時預かり事業について説明をお願いします。

【事務局】（同資料中 一時預かり事業①幼稚園における在園児を対象とした一時預かり「不定期」、②同「定期」について説明）

【青木部会長】なかなか難しい話ですけど、特にご質問ありますか。内野さんどうですか。

【内野委員】②の方で、掛け率1から0.26と大きく下がって、ニーズ量が28万から7万となっていますが、こんなに下がりますか。

【久間保育対策課長】実際、今預り保育をお断りしている状況は幼稚園の中でありますか。

【内野委員】お断りはないです。

【久間保育対策課長】希望する方は皆さん使っていて、量としては充足されていると考えています。実際使われている量と今回のニーズ調査の結果を比べると、あまりにもかい離があって、手引きの方法が八王子市にはなじまないのだろうということで、なるべく現実の数字に近い形に変えたということです。見込まれるニーズ量を小さくカットしようということではありません。

【内野委員】実績値はどのようになっているのですか。

【事務局】例年行っている調査を利用して集計したのですが、それによると①と②を合わせ、8万3,000ぐらいです。

【久間保育対策課長】①と②を分けて集計できなかったもので、合わせた数しかお示しできませんが、24年度実績で8万3,000に対し、今回出した数字が12万近くとなっています。

【内野委員】わかりました。

【青木部会長】よろしいでしょうか。それでは次に行きます。

【事務局】(同資料中 一時預かり事業③その他について説明)

【久間保育対策課長】実績は1万5,997しかないのに対し、手引きによるニーズ量16万は、あまりにもかけ離れています。補正後の4万4,000に対しては、定員は4万7,000を確保できています。

【青木部会長】こちらはみなさんよろしいですか。

では、病児・病後児保育も同じように説明をお願いします。

【事務局】(同資料中 病児・病後児保育について説明)

修正案では、登録者の実利用率11パーセントを掛け合わせています。また、このアンケートにつきましては、一年間に子どもの病気で親が休んだ日数について、そのまますべての日数を病児・病後児保育に預けたいと回答している人が多く、結果が相当大きい数字になっています。この点についても補正をしたいと考えています。

【青木部会長】特に何かありますか。

【小林委員】病児・病後児保育は、場所が少なく、親からすると非常に使いにくいという現状があるため、利用できなかったり、登録していなかったりします。朝行ってから空きがあるかないかわからなかったり、季節によって混み合っていたり、いろいろあります。確かに30日病気の日があれば30日全部預けたいというのはオーバーかもしれませんが、有給休暇20日も休ませてくれるような会社もないので、預けるのは心配でも、病児・病

後児保育が利用できるのなら、預けると思います。ですから、登録者の実利用率11%をニーズだというのは、違うのではないかと思います。

女性を働きやすくするという考えがあるならば、もっと場所があるとか、もっと使いやすさとかを追求するべきで、これでいいとは思えないです。

【鍛冶委員】私もこの数字は低いと思います。病児・病後児保育が使いにくいというのは、皆の共通の不満だと思います。

【志萱保育幼稚園課長】地域が広い中、現在の3か所が十分かどうか、検証する必要があると思っています。24年度は3施設あって、利用定員が年間3,516に対して、利用が1,055で、対定員30パーセントの利用でした。ただ、おっしゃるようにアンケート調査の結果をみても、多くの方が場所の不便さを答えていますので、地域的にどのようなニーズがあるのか踏まえた上での施設整備が必要と考えています。

【小林委員】病院が安心なのですが、朝病院へ行って9時、10時に預けてから仕事に行くというのも厳しいです。ファミリー・サポート・センターとか、居宅などとの組み合わせた利用が必要なのかもしれません。定員を増やせば、季節によっては全然病院に来ないという時期もあり、効率が悪くなるのもわかるのですが。

【志萱保育幼稚園課長】例えば定員4人の施設では、4人満員の日もあれば0の日もあって、おそらく利用率が50パーセントを超えたら、それは足りないということになると思います。ニーズ量が3,521なので施設の定員がこの数を満たせばいいと考えているわけではありません。特に地域的なこともありますので、人の流れとして、多くの人の通勤途上である駅の近くに整備していく必要があると認識しています。

【小林委員】病気の子を連れていくとなると、車で連れて行きたいと思うでしょうし、保育園に預けて行くように、病院に預けて職場に行けなければ不便かと思います。

【鍛冶委員】整備は難しいと思いますが、ニーズはもっと多く見積もっていい気がします。

【柘澤委員】結婚年齢が遅くなり、出産も遅くなってきている中で、親が高齢になっていって、どうしても育児と介護が同時期になってくる時代が来るでしょう。そうすると、今後子どもの数が減ったとしても、新たなニーズが出てくるだろうと考えられます。また、病気の時には素人の人間がそばにいるよりもちゃんとお医者さんがいて看護師さんがいるような環境の方がこの子にとってはいいのだとか、価値観が変わることによってニーズが出てくるかもしれません。今の価値観が時代とともに変わり、利用するスタンスがだんだん変わってくるだろうなと思います。そうすると、現状でいう11パーセントも今後増え

る可能性があります。

【青木部会長】今、八王子にある施設は3つですか。

【志萱保育幼稚園課長】はい。2か所は病児・病後児両方で、1か所は病後児です。

【青木部会長】病児と病後児のラインも非常に難しいですね。

【柘澤委員】このあいだ聞いた不満は、市外にある病後児保育の施設で37度5分以上熱のある子どもは預かってもらえないというものでした。運営している側からすると、一律のラインが必要なかもしれませんが、利用する側からすると本当に使いにくいものです。

【鍛冶委員】利用する人が全部分かっていて利用するわけではないから、使いにくさを普段感じている方は多いでしょうね。

【青木部会長】では、この数字については、利用者が使いやすくなる形に直してほしいと思います。

続いてファミリー・サポート・センターについてお願いします。

【事務局】(同資料中 ファミリー・サポート・センターについて説明)

就学前児童のアンケートでは、希望すると回答したサンプル数が非常に少なく、低学年時の利用希望が0人、高学年時で1人のみでした。ですので、小学生の保護者向けに行った別のアンケートの結果を利用し、補正しています。

【青木部会長】こちらは何かご質問ありますか。よろしいですか。

では、待機児の集計結果と量の見込みについて、総体的に何かご意見などありますか。なければ、事務局から連絡などあればお願いします。

【久間保育対策課長】パブリックコメントの内容ですが、郵送かメールでお送りしますので、ご確認ください。

【青木部会長】最後に、鍛冶副部会長お願いします。

【鍛冶委員】ニーズ量の数字については、適正かどうかすぐに判断することは難しいのですが、適正な数字を導き出したいという気持ちは伝わってきまして、方向性としては間違っていないのではないかと考えています。また、柘澤委員がおっしゃっていた、生活スタイルや考え方が変わっていくとともに変化するニーズもあるかと思しますので、現実の数字と併せ、そういうことも踏まえて検討してもらえたらと思いました。以上です。

【青木部会長】それでは、本日は終了します。